

JAL グループ中期経営計画ローリングプラン 2019 説明会 主な質疑応答（要旨）

■ 国際線について

Q 機材仕様の需給適合について

A エコノミークラスの需要が多い一部の路線では、1 機当たりの座席数を増加させる機材仕様の改修をしており、機材数を増やさずに座席数を最適化することで供給を拡大し、健全な供給規模の拡大を図ってまいります。

■ 国内線について

Q 2019 年度のユニットレベニュー、ロードファクターの見通しは？

A 新機材の導入と新しいサービスの導入により、今後もユニットレベニュー、ロードファクターを高いレベルで維持し、さらに向上させてまいります。

■ 燃油・為替の市況変動による利益影響について

Q 2019 年度の燃油・為替の市況変動による利益影響の想定はどれくらいか？

A 足元ではシンガポールケロシン 80 ドル、為替 110 円/USD (説明会資料 P.33 のマトリックス抜粋)

であり、このレベルで推移すると本来+70 億円の利益影響となります。但し、2019 年 4-5 月の燃油サーチャージ適用額は既に決定済み（日本発：7,000 円基準、日本以外発：70 ドル基準）であり、その影響は▲70 億円。よってこの影響を織り込むと±0 の影響となります。

シンガポールケロシン (USD/80)	75ドル	80ドル	90ドル	95ドル
為替 (円/USD)			予想前提	
115円	+40億	+65億	0億	▲90億
110円	+120億	+70億	+10億	▲5億
105円	+130億	+150億	+100億	+15億

■ 投資計画について

Q 前計画対比で 400 億円増となっているが何が増えたのか？

A 2018 年 2 月 28 日に発表した前計画では総額 6,600 億円としておりましたが、400 億円増やし、7,000 億円とする計画です。増加する 400 億円は、成長ドライバーである国際線の強化のための航空機への投資であり、国際線供給量拡大により 300 億円増、導入時期変更等で 100 億円増となります。中長距離 LCC の T.B.L.（設立準備会社）には中型機 2 機が導入される予定です。

■ 株主還元について

Q 今後の方針は？

A 安定的な配当と積極的な自己株式取得を組み合わせ、「総還元性向」を意識した検討を進め、早期に具体的な株主還元策を発表したいと考えております。目安とする配当性向については、実効税率の上昇により配当水準が減少しないよう、2019 年度から、目安とする配当性向を引き上げる予定です。

以上